

2009年12月14日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

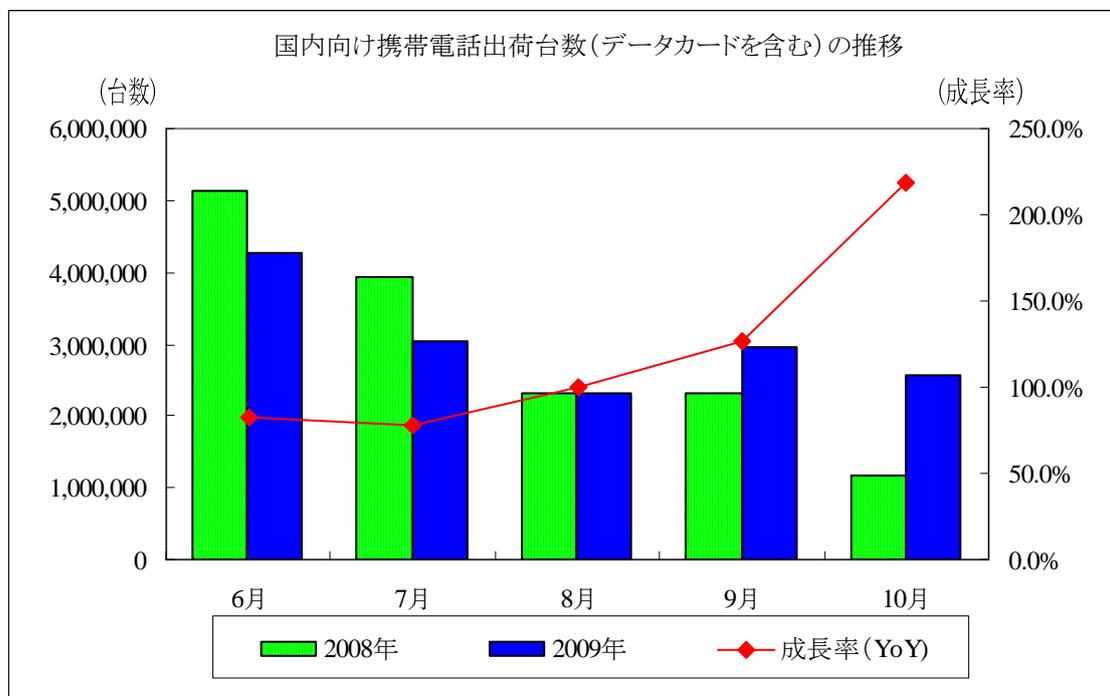
2009年10月の国内携帯電話出荷台数は前年同月比200%超を達成

～ KDDI 陣営の出荷が久々に大台を突破、市場は回復傾向を迎えつつある～

株式会社テクノ・システム・リサーチは国内市場向け携帯電話出荷台数の統計資料『月刊携帯電話機出荷統計情報』2009年10月号を12月初旬に発刊しました。

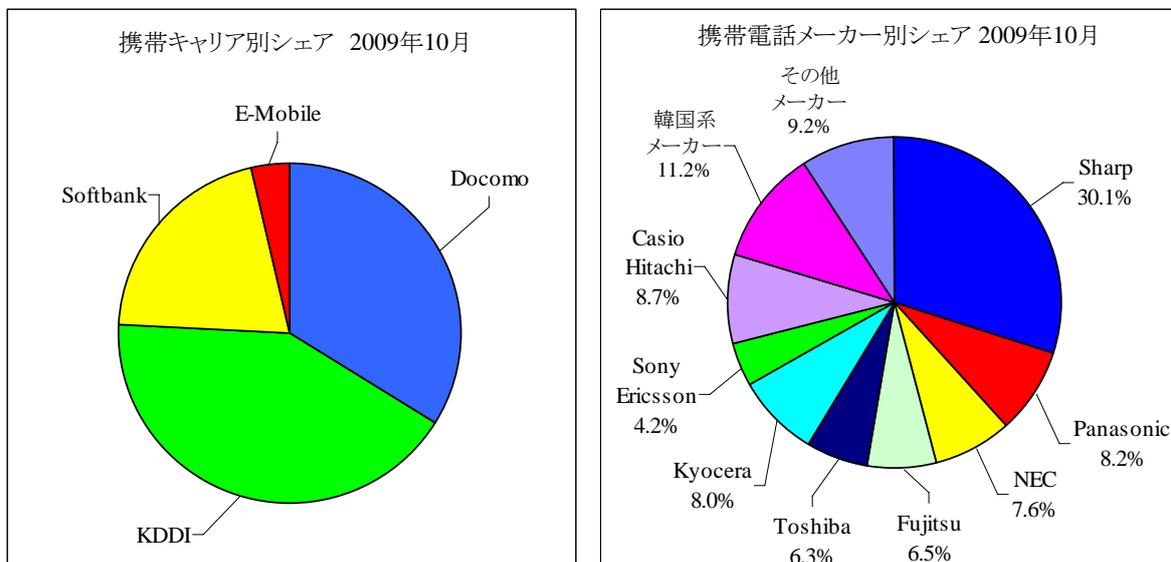
2009年10月の国内携帯電話出荷台数は、データ通信カード(WILLCOM CORE 3G等も含む)と合わせて257万8千台となり、前年同月比で220%近い成長を記録した。昨年に関して言えば、10月は各キャリアともに夏モデルと冬モデルの端境期にあったため、出荷台数が120万台弱にとどまったという要因もある。2009年10月も昨年同様、夏モデルから冬モデルへの移行期に位置しており、対前月比では10%以上の落ち込みを見せている。

しかしながら、KDDIが月末に新製品の第一弾(5モデル+新色1モデル)を発売したことで、同社向けの出荷が前年比で大きく伸び(前年同月比244%)、このことが市場全体を底上げする要因となった。またドコモも既存モデルの新色を追加発売したことで、同社向け出荷台数も前年比で大きく成長した(前年同月比273%)。



キャリア別の出荷状況を見てみると、新製品を発売したKDDI向けの出荷が100万台を超したことで前月よりシェアを15%以上伸ばしトップに立った。同社は9月までに大幅な在庫圧縮に成功しており、そのため冬モデルの初回出荷台数が久々に10万台の大台を突破した。一方、ドコモ

向けは昨年10月以来、100万台を割り込みシェアを15%近く落とした。ソフトバンクモバイル（Disney Mobile 含む）とイーモバイル向けも出荷台数は落ち込んだが、シェアを大きく落すことはなかった（※いずれもデータ通信カードを含む）。



携帯電話機メーカー別の出荷台数シェアを見ていると、首位 Sharp のシェアが30%台に突破し、2位以下を大きく引き離れた。2位になったのは新製品2モデルの出荷を行なった CasioHitachi であり、前月2位だった Panasonic が3位に転落し、同じく6位だった Kyocera が4位に食い込んだ。一方、ドコモ向け出荷に主力を置いている NEC や Fujitsu がそれぞれ5位、6位と順位を大きく落した。特に Fujitsu は9月と比べるとシェアが半分近くまで落ち込んだ。

9月に続いて10月も韓国勢が好調を保ち、韓国勢3社の総出荷台数は9月に引き続き30万台近くに達した。特筆すべきは Samsung の出荷台数が遂に10万台を突破したことである。

11月以降は、KDDI に続いてドコモ、ソフトバンクモバイルからも冬モデルの新製品が発売されるため、引き続き出荷台数の伸びが期待される。市場は徐々に回復傾向を見せつつある。

【2009年9月発売の新製品】

キャリア	メーカー	モデル名	特徴 etc.
KDDI	Kyocera	SA001	世界最薄のワンセグスライドケータイ
		E07K	法人向け
	Sharp	SH003	12.1メガCCDカメラ搭載
	Sony Ericsson	S002	コンパクトラウンドフォルム
Softbank	Sharp	832SHs GENT	3.0"ディスプレイ、大人のこだわりケータイ
	Samsung	740SC	シンプルデザインの世界対応ケータイ

※10月30日発売予定だったCA003、CA004は11月に発売が延期

【資料紹介】

『月刊携帯電話機出荷統計情報』は各携帯電話機メーカーの通信事業者向け出荷台数について、毎月各モデル別に調査し統計を取って資料として纏め上げたものです。モデル別のデータを必要とする顧客にとって最適の資料となります。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ
 第2グループ 武花勇一(takehana@t-s-r.co.jp) 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp)
 TEL:03-3866-4505 / e-Mail:info@t-s-r.co.jp